

～「今後の家庭教育支援の充実についての懇談会」報告のポイント～

## 「社会の宝」として子どもを育てよう！

子育ては、  
親だけが担うことだと思っていないですか？

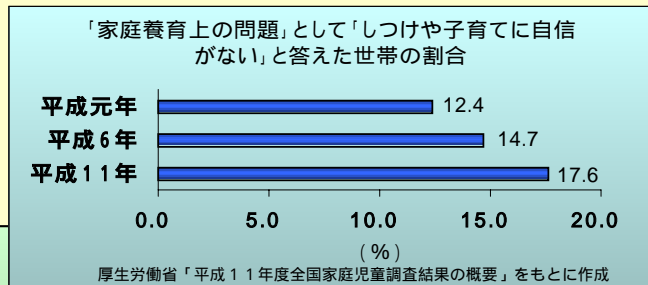
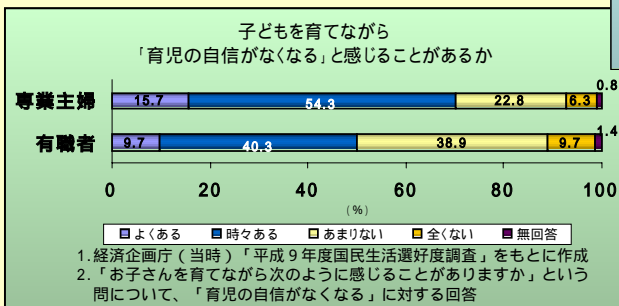
そうではありません。  
子どもを育てることは未来の日本を支える人材を育てることです。  
社会の一人一人、みんなが主役なのです。  
子どもの成長を社会全体で支え喜び合いましょう。



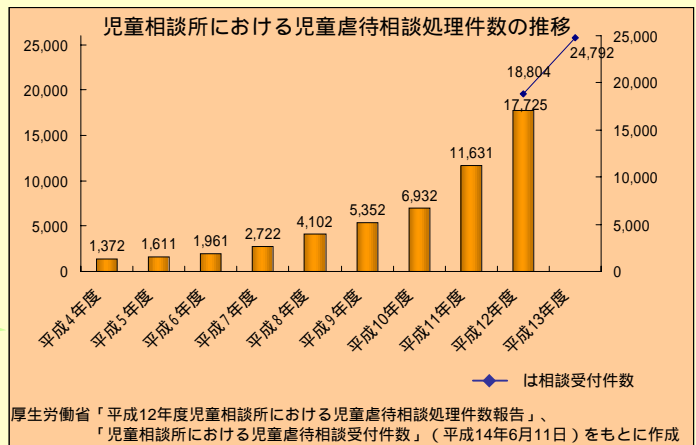
現在、子育てをめぐる問題は、放っておけない状況になっています。

近年、育児不安の増大、児童虐待の急増などが問題となっています。この背景として、子どもへの接し方や教育の仕方が分からない親の増加、しつけや子育てに自信がない親の増加、過保護や過干渉、無責任な放任など、家庭の教育力の低下があるのではないかと指摘されています。

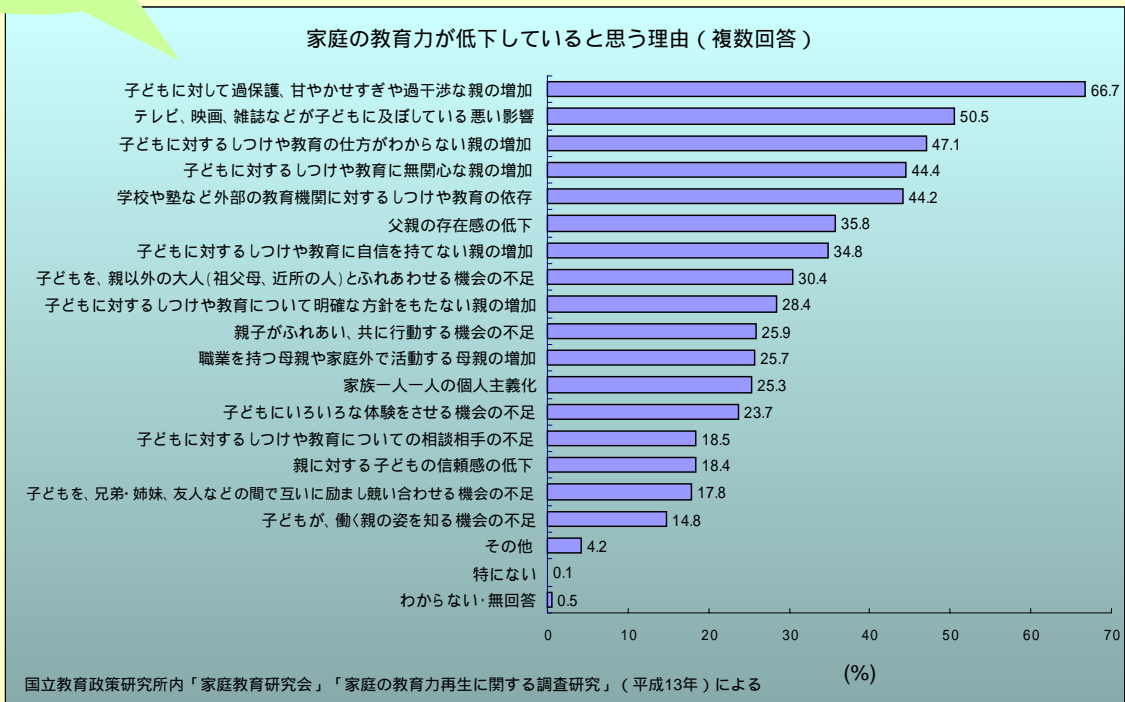
育児不安の増大



児童虐待の急増



家庭の教育力の低下



家庭教育って何？

親や、これに準ずる人が子どもに対して行う教育のことで、すべての教育の出発点であり、家庭は常に子どもの心の拠りどころとなるものです。

乳幼児期からの親子の愛情による絆で結ばれた家族とのふれあいを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割を担っています。



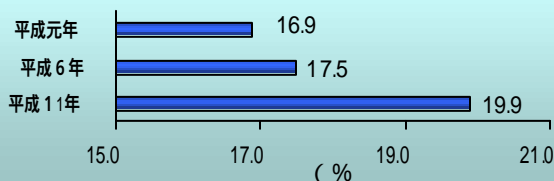
家庭教育はすべての教育の出発点で、人格形成の基礎を培うもの。子どもにとって、とても大事なものなんだね。

しかし、家庭の教育力の低下は、  
個々の親だけの問題ではありません。

都市化や少子化、核家族化、地域の人々とのつながりが減少したことなど  
子育てを支えるしくみや環境が崩れていることや、  
子育ての時間を十分に取ることが難しい雇用環境があることなどにも目を向けなければなりません。



「家庭養育上の問題」として「親（保護者）と子の接触時間が不足している」と答えた世帯の割合



厚生労働省「平成11年度全国家庭児童調査結果の概要」をもとに作成

# 地域・家庭の昔と今



社会情勢の変化

高度経済成長期  
安定成長期

重厚長大産業中心

終身雇用・年功序列

仕事一辺倒、会社一辺倒 (特に男性)

右肩上がりの成長

労働力人口 15歳以上60歳未満 増加

総実労働時間 昭和45年 年間2,239時間



バブル期

景気の拡大 (消費の高級化など)



(産業構造の転換)

(雇用形態の変化)

(少子化)

意識の上での個人や家庭への回帰 (特に若い親)

バブルの崩壊以降

経済の停滞

総実労働時間 平成12年 年間1,854時間

意識の上での個人や家庭への回帰は進んできたが、平成11年度の育児休業の取得状況は、女性56.4%、男性0.42%と、低い状況にある。

安定した収入の確保が必要

労働力人口 (15歳以上60歳未満) 減少

職場優先の社会の風潮・企業等の職場風土の是正

家計の面や、労働力人口の確保の観点からも男女共同参画が必要 (家庭生活と仕事、地域活動などとの両立を)

今後は...

21世紀の少子高齢社会

子育ての負担が母親のみに集中する状況が緩和され、男性・女性が共に子育ての責任を果たし、地域一体となった子育て支援が行われることが必要



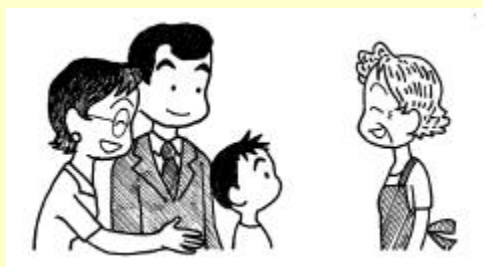
## 意識の変化

社会の価値観が多様化する中で、若い世代の就労をはじめとする様々な形態での社会への参画が進み、若い世代の意識も変化しています。このため、意識やライフスタイルの多様化や世代間の意識のギャップが生じていることも重要なポイントです。

### 子育ての状況や抱える問題も様々

一人で子育てを抱え込み、これ以上追い詰めてはいけないというほど頑張っている親

仕事と育児の両立に悩む親



周囲の手助けを上手に借りながら子育てする親

孤独な密室育児に苦しむ親

子育てにはまったく無関心な親



離婚や死別等により、仕事と子育てを一人で担っている親や外国から来た親、障害のある親や障害のある子を持つ親など、周囲の支えをより必要としている親

ある子を持つ親など、周囲の支えをより必要としている親



子どもを虐待する親

### 子どもの発達段階によっても抱える問題は様々

とりわけ思春期の子どもへの関わり方は難しいものがあります。特に近年・・・

- ・少年非行の深刻化
- ・性や暴力に関する有害情報の氾濫 など



だから、今…

## 「社会の宝」として子どもを育てることが必要



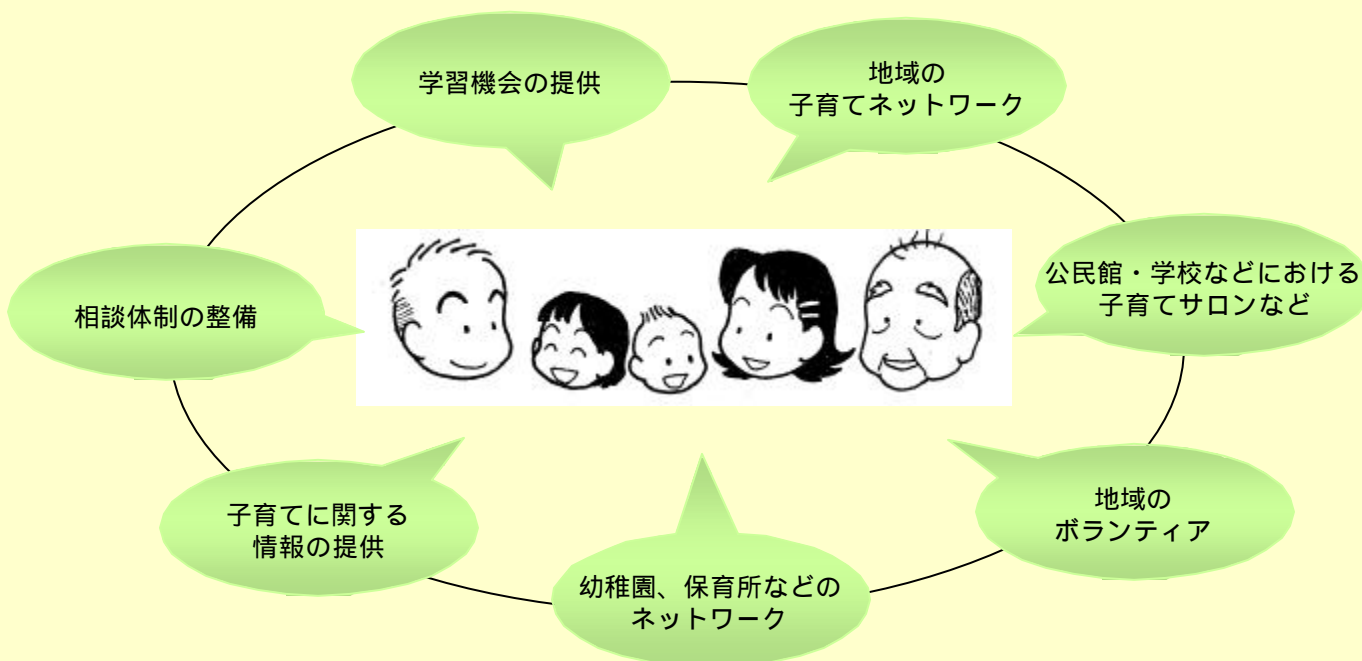
子育てをみんなで支えていくことが求められています。

子育ては、未来の日本を支える人材を育てる重要な営みです。社会全体が、子育てを応援し、支えていくことが求められています。「社会の宝」として、みんなで子どもを育てていきましょう。

そして、現代の若い世代が置かれた状況を理解し、多様なライフスタイルや意識に応じた支援をすることが重要です。また、子育ての当事者に軸をおいて施策を進めることが大切です。

### 子育てをしているあなたへ

社会があなたの子育てを応援します。



## 家庭では・・・

子育ては父親と母親の両方に責任があります。お互いに努力しましょう。

子育てには不安や悩みはつきものです。

特に最初の子どもの場合には子育てにとまどうことはよくあることです。

一人で悩まずに周囲の人に相談しましょう。

開かれた家庭づくりにつとめ、子育てに困った時や悩んだ時に助け合えるようにしましよ

う。

子育てを支援する人たちの言葉に耳を傾けることも大切です。

公民館などで開かれている学習機会、地域の相談機会やネットワークを利用しましょう。

家庭教育手帳、ノートを活用して夫婦で子育てについて語り合う際に活用されてはいかがでしょうか。

家庭教育手帳・ノート  
を子育てのヒントにし、  
活用しましょう。



具体的には、子どもに何  
を教えたらいいの・・・？

子どもの発達段階に応じて、例えば次のようなことに気を付けていきましょう。

### 乳幼児期

しっかり抱きしめ、愛することが大切です。

あいさつや早寝早起きなどの基本的な生活習慣を身に付けさせることが大切です。

読み聞かせもしてあげるといいでしょう。

### 小学校 低中学年

自然とのふれあいやお手伝いなどの生活体験が重要です。

異年齢の子どもとの集団での遊びが重要です。

### 思春期

子どもの話をじっくり聞くこと、子どもによく話しかけることが重要です。

自立を促し、手放しつつ見守ることが大切です。

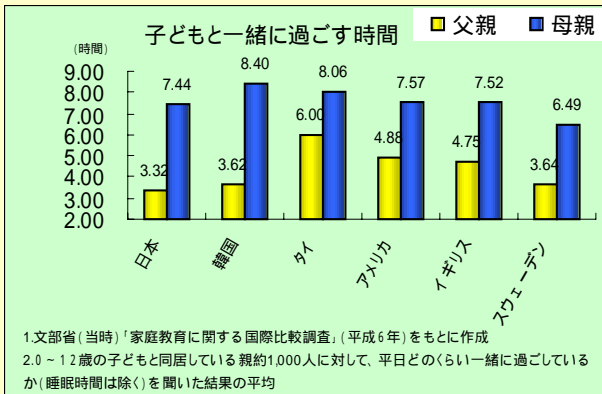
食生活も大変重要です。





特にお父さんへ

国際比較調査において、日本のお父さんの家庭教育参加は極めて少ないとされています。



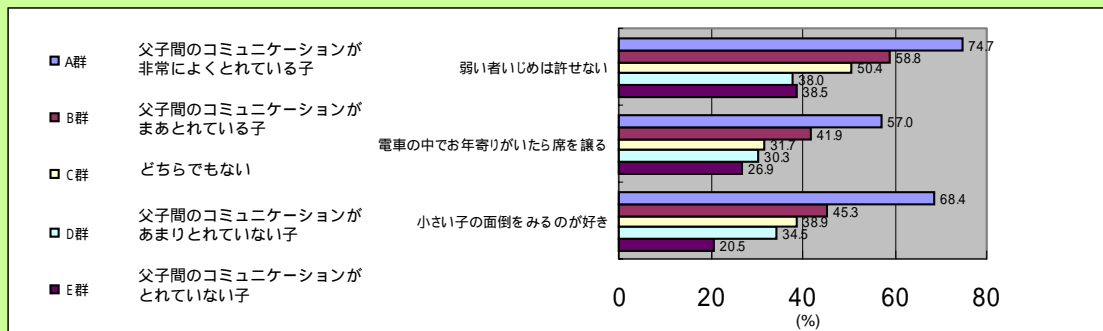
6歳未満の子どもがいる世帯の夫婦の一日の育児時間(時,分)

		週全体	平日	土曜日	日曜日
育児時間	夫	0:17	0:10	0:29	0:38
	妻	2:39	2:47	2:29	2:09

総務庁統計局(当時)「社会生活基本調査」(平成8年)による

お父さんの関わりは、子どもの成長にとって好ましい影響を及ぼします。子育てに、もっと関わっていきましょう。

父と子のコミュニケーション状況と子どもの社会性(中学2年生)



- くもん子ども研究所「父と子のコミュニケーション」(平成3年)による
- 小学5年生、中学2年生、高校2年生2,316人に対して、父と子のコミュニケーションが子どもの社会性及び日常生活に及ぼす影響について分析したもの。

お父さんも子育てを担うことにより、子育ての喜びを感じることができるとも、お父さん自身が人間的にも成長することを知ることが大切です。

家庭教育における父親の役割の重要性・責任を自覚しましょう。多忙な中でもちょっとした工夫、努力が大切です。

「地域の先生・お父さん・おじさん」として、子どもたちとの交流等に積極的に参加していくことを期待します。

## 企業など職場の関係者のみなさんへ

子育ては未来の人材を育てる重要な営みです。

子育てをしやすい雇用環境を整えることは、未来の日本を支える人材を育てることにもつながります。

家庭が安定していてこそ仕事に打ち込むことができます。

父親・母親でもある社員が子育てにもっと関われるような環境をつくるのが大切です。



かすみがせき保育室

企業等職場の関係者のみなさんは、父親・母親でもある社員がもっと子育てに関われるように、労働時間を短縮したり、個々人の希望に応じてフレックスタイム制、在宅勤務などを積極的に導入をしてはどうでしょうか。

例えば、企業が、社会貢献活動として、所有する施設を、地域の親子が一緒に参加できる行事に提供するといった協力も考えられます。

企業としても「家庭の日」「子どものための日」等を設けたり、「子どもの職場参観」を実施したりするなど、具体的な家庭教育、地域活動等への支援をしてはどうでしょうか。

### <フレックスタイム制>

1ヶ月以内の一定期間における総労働時間をあらかじめ定めておき、労働者がその枠内で各日の始業終業時刻を自主的に決定して働く制度

(平成13年版厚生労働白書より)



### 「ファミリーフレンドリー企業」

厚生労働省では、仕事と子育てが両立できる様々な制度を持ち、多様でかつ柔軟な働き方を労働者が選択できるようにファミリーフレンドリー企業を表彰する制度を設けています。

## 地域や学校のみなさんへ

地域一体となって子育て支援をしましょう

「地域のお父さん、お母さん」として、地域の子を見守り、育てていくことは大事な役目です。

さまざまな団体同士が横のつながりを深めていきましょう。

子どもたちの職場体験活動やボランティア活動等を進め、「生きる力」を育むとともに、地域で子どもを育てる意識や体制をつくりましょう。

子育て支援や人の輪づくりを進める中心となる「場」をつくっていきましょう。

子どもと一緒に計画したりしながら地域の活動を進めましょう。

プレイパークなど子どもが自由に遊べる場をつくりましょう。

児童虐待が疑われるような場合には、児童相談所等へ通告するとともに、様々な困難を抱えている家庭を支援することも、地域や学校のみなさんの大事な役目です。

幼稚園・保育所や小・中学校に子育てについて語り合う場を設置するなどの協力を進めましょう。

児童生徒等の若者の保育体験を推進しましょう。

地 域

学 校

職 場

家 庭

行 政



## 行政関係者のみなさんへ

子育ての社会化を促すムードづくりを進め、家庭教育を支援する基盤を整えましょう

家庭教育支援を21世紀の教育行政の重点課題として、予算措置を含め施策の充実を図ってください。

文部科学省は厚生労働省との連携を、教育委員会は母子保健・福祉部局との連携を一層強化してください。

子育てネットワーク関係者との連携を図りつつ、子育てサポーターの数の大幅な拡充を図るなどにより、市区町村の子育てネットワークの形成の支援に一層力を入れてください。



すべての親が、子どもの発達段階に応じた家庭教育の講座に参加できるような機会を設けてください。



「子育てサロン」型の学習形態に対する理解を深め、全国各地域に設置されるよう支援してください。

「ひとり親家庭」や「職業を持つ親」、「父親」など、今まで十分学習機会に参加できなかった人のため、平日の夜や週末の学習機会の提供に努めたり、インターネット等のITの活用による情報発信を行うなど、子育て情報や学習機会の提供方法の工夫をしてください。



家庭教育手帳・家庭教育ノートについて、内容や名称の改善、子どもの発達段階ごとに分けるなどの改善を検討してください。

公民館の家庭教育学習の拠点としての役割は極めて重要です。家庭教育支援の取組の改善が図られていない公民館については、改善を図ってください。

例えば、「家庭の日」や「子どものための日」を設けたり、運動公園などの施設を無料開放するなどして、地域の様々な団体の活動を支援し、つなげてください。

「子育てサポーター」について、現在行われている養成・研修に加え、次世代のサポーターの育成、サポーターの活動のコーディネート、子育てネットワークの運営などの役割に応じた養成が行われるようにするための研修計画の作成と提供に取り組んでください。

子育てネットワークなどの実態を把握し、データベースを作成するとともに、ネットワークづくりやネットワークに対する支援の在り方、行政との連携の方法などを研究し、情報提供の充実を図ってください。



## 子育て支援を進める際の留意事項は・・・

### 学校や地域の団体との連携

子どもたちが、「地域の先生」である高齢者、自分の親以外の大人、異年齢の子どもと関われる場を設ける。

中高年の生涯学習の活動にもなる



「ふれ合い給食」や「自由参観日」、「校庭・園庭開放」、「図書館・図書室の開放」など、安全管理に十分配慮した上で、小・中学校や幼稚園・保育所等の持つ機能や施設を開放する。

### 子育てネットワークの運営

親自身が楽しみながら、ネットワークの活動を通じて社会に参画していく力をつけていくことが大切。

### 父親の家庭教育への参加

父と子が一緒に楽しんで参加できる行事や活動の機会を提供。

・家庭教育学級等

「お父さんの子育てサークル」をPTA活動などから地域へと広げていく。

放課後児童クラブにおける活動などの、夜間や週末の活動への参加。

### 子育てネットワークの形成のために

子育てネットワークやサークルづくりを支援する公民館等は、はじめは公民館主導でも、徐々に親たち自身が運営していくことができるように指導していくことが大切。

行政は、各地の子育てサークルの情報を集めることも大切。

### 子育てサポーターの養成について

子育てサポーターは、母親を取り巻く状況が昔とは違うことを理解することが必要。

子育てサポーター養成講座で、現状の理解を。



### 家庭教育手帳、家庭教育ノート の活用促進



市町村や学校の関係者は、「配布する資料」から「活用する資料」への発想の転換が必要。